

## 長時間題材中心の年間指導計画例

長時間題材を中心に、鑑賞を大切にしながら各題材を配置した年間指導計画例である。 ○は関連する題材のページ、●はオリエンテーション・資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ	
1学期	前期	1	表現・鑑賞 絵画	感覚と相談だ 「線」が「面」に変わる瞬間	美術の世界では、自分で形や色彩を決める。自分で「美しい」と感じた瞬間や〇〇と感じた瞬間、自分自身の持っている価値や概念を認識する。 画用紙の上に、何本も「線」を引いているうちに、「面」に変化する。自分が感じる線の集まりから面に変わる瞬間を作品として提示し、活動を通して、自身で感じる線と面を定義として考える。 ○「感覚と表現」 ●「紙の上で考える。」「線や面で捉えて描こう」	6 22～23 44	
		4	1	表現・鑑賞 絵画 映像メディア表現	目に見えないものを表現する。	「こころ」「いのち」「愛情」など、言葉や概念は存在していても、その形や色を見たことがないものが多く存在する。目には見えないものを写真、または絵画で視覚的に感じさせる表現を考える。 ○「内面を見つめて」「怪異の生き物たち」「写真と時間」 ●「目に見えないものを表現する。」	4～5 16～17、30～31 78～79
		2	表現・鑑賞 彫刻	立て！コピー用紙 「立つ」ための条件	A4のコピー用紙が「立つ」ための様々な工夫をし、多様な方法で立たせ、そこから「立つ」ための条件を整理する。 ○「運慶とミケランジェロ」	46～47	
		5	8	表現・鑑賞 鑑賞 彫刻	重力と戦ってみよう 片足で立つポーズ	片足で立つことだけを条件に、ポーズを取り、粘土で自画像を制作する。粘土の重さと、バランスを考えなければ、自立する作品にならないこと、自立する作品に必要な工夫は何かを思考しながら制作する。 ○「運慶とミケランジェロ」 ●「彫刻をつくる―素材と技法―」	46～49
	中期	6	表現・鑑賞 鑑賞 絵画	色の手紙	ある日、赤い色の紙1枚が「あなたへの手紙」として封筒に入れて届いた。この手紙からどのようなメッセージを受け取れるのか。青い色の紙1枚だったら、または数色の色の塊が置かれているだけのパウル・クレーの作品だったら……。どんな意味を含めた手紙かを考えて、その返事を色紙で色彩構成して描く。 ○「感覚と表現」 ●「色彩の仕組み」	22～23 86～90	
		6	4	表現・鑑賞 デザイン	私の頭の中かもしれない 新種発見	ヨシタケシンスケ作「りんごかもしれない」(プロダ社)や教科書P.60～61の「りんご」から多様なイメージを広げる遊びをして、一つのテーマを基に拡散的なイメージを生み出す。りんごだけではなく、新種の蝶、新種の魚など、新種の生物を想像することで思考を広げる。 ○「気づきに気づく」	60～61
		7	8	表現・鑑賞 デザイン	デザインがユーザーをつくる 誰のためのデザイン？ 何のためのデザイン？	身近な人をユーザーに決め、性格、生活リズム、嗜好等を取材し、その人が使いやすい道具(ハサミや爪切りなど)を、教科書P.70～71のデザインのプロセスを参考に、紙粘土等でのモデルやイラストを用いてプレゼンテーションし、ユーザー自身から評価を受ける。 ○「優しさのデザイン」 ●「誰のためのデザイン?何のためのデザイン?」「デザインのプロセス」	68～73
		8	8	表現・鑑賞 鑑賞 デザイン	人を振り向かせる方法	地域や学校の中に掲示することで、道行く人の足を止めたり、振り向かせたりするために、視覚表現による作品を用いた方法をチームで考え、作品制作と方法の提案を行う。 ○「ポスターで考える」「仕組みをデザインする」 ●「アートは世界をどう変えるのか?」	2 62～63 74～75 102～103
	後期	9	8	表現・鑑賞 映像メディア表現	○(マル)が動く 表現が与える命	「○」の形から始まり、「○」の形で終わるアニメーションを制作する。「○」の形が同じであるため、クラスの仲間とアニメーションをつなげることができる。 ○「アニメーションの仕組み」	80～81
		10	2	鑑賞 デザイン	人類に何があったのか これから何が起こるのか	テクノロジーも生活の中に芽吹く文化である。教科書P.58～59の石盤とスマートフォンの写真を見て、この二つのツールが生まれる間の約4000年で人類に何があったのか、そして、二つのツールの間にどのようなツールが存在していたのかを考え、これからのコミュニケーションの形をイメージする。 ○「デザイン」コミュニケーション①	58～59
		11	10	表現・鑑賞 絵画	私物語の背景画	自分が主人公のアニメがつくられることになったとして、タイトル、ストーリーを考え、そのアニメの「背景画」で使用する風景を「主人公(私)」のシーンに合わせてスケッチする。 ○「配置と構図で語る」「描きとめられた記憶」	20～21 40～41
		12	2	鑑賞 絵画	継承と創造 ～文化のバトンの渡し方～	琳派の私淑等、多くの作家が、過去の作品から美を感じ取り、自己の美として自分らしく表現してきた。その作品から、さらに誰かが新たな美の感じ取り方を。美や文化のバトンを受け取り、そのバトンを誰かに渡す「文化のリレー」として鑑賞を行う。 ○「継承と創造」「過去、現在、未来を見通すアート」	26～27 32～35
3学期	1	2	鑑賞 絵画 彫刻 映像メディア表現	水をつかまえる	科学的な観察や、心での観察、これまで様々な作家が様々な方法で、生命の源である水を探ってきた。水や粘土での表現にも水は欠かせない。多様な考え方、視点で捉えた水を絵画、彫刻、写真などの多様な技法を活用して表現する。 ○「創造の扉 藝術北斎」「テクノロジーで表現をどのように変えるのか?」「写真と時間」 ●「紙の上で考える。」	7 24～25 76～77 78～79	
	2	2	鑑賞 彫刻	フィボナッチを探せ!	植物の葉の数、巻貝の形、規格用紙の矩形等、フィボナッチ数列や黄金分割によるものが生活環境に多く存在していることを知り、建築やアートに多く応用されている数値的要素を探し、写真で記録する。 ○「サイエンスアート」	56～57	
	2	6	表現・鑑賞 鑑賞 絵画 彫刻 デザイン	願いをカタチに	自分の願いや夢を表現に変えることもアートである。自然の摂理を明らかにしたい(P.7)、世界が平和であってほしい(P.12～15)、自分の子どもに健やかに育てほしい(P.30～31)、自分の生きた証を残したい(P.42～43)、たくさんの人に幸せになってほしい(P.72～73)など、自分の願いや夢を叶えるための絵画、彫刻を制作する。 ○「創造の扉 パプロ・ピカソ」「怪異の生き物たち」「版を用いて表現を深める」「優しさのデザイン」 ●「紙の上で考える。」	7 12～15 30～31 42～43 72～73	

## 短時間題材中心の年間指導計画例

短時間題材や選択できる題材を中心に構成した年間指導計画例である。 ○は関連する題材のページ、●はオリエンテーション・資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ	
1学期	前期	1	表現・鑑賞 絵画	感覚と相談だ 「線」が「面」に変わる瞬間	美術の世界では、自分で形や色彩を決める。自分で「美しい」と感じた瞬間や〇〇と感じた瞬間、自分自身の持っている価値や概念を認識する。 画用紙の上に、何本も「線」を引いているうちに、「面」に変化する。自分が感じる線の集まりから面に変わる瞬間を作品として提示し、活動を通して、自身で感じる線と面を定義として考える。 ○「感覚と表現」 ●「紙の上で考える。」「線や面で捉えて描こう」	6 22～23 44	
		4	4	表現・鑑賞 絵画 映像メディア表現	目に見えないものを表現する。	「こころ」「いのち」「愛情」など、言葉や概念は存在していても、その形や色を見たことがないものが多く存在する。目には見えないものを写真、または絵画で視覚的に感じさせる表現を考える。 ○「内面を見つめて」「怪異の生き物たち」「写真と時間」 ●「目に見えないものを表現する。」	4～5 16～17、30～31 78～79
		1	表現・鑑賞 鑑賞 彫刻	立て！コピー用紙 「立つ」ための条件	A4のコピー用紙が「立つ」ための様々な工夫をし、多様な方法で立たせ、そこから「立つ」ための条件を整理する。 ○「運慶とミケランジェロ」	46～47	
		5	6	表現・鑑賞 鑑賞 彫刻	重力と戦ってみよう 片足で立つポーズ	片足で立つことだけを条件に、ポーズを取り、粘土で自画像を制作する。粘土の重さと、バランスを考えなければ、自立する作品にならないこと、自立する作品に必要な工夫は何かを思考しながら制作する。 ○「運慶とミケランジェロ」 ●「彫刻をつくる―素材と技法―」	46～49
		1	表現・鑑賞 デザイン	文字で伝わるもの 文字で伝わらないもの	レタリングの書体や、色を変化させると、伝わる感じが異なってくる。文字が伝えているもの、色が伝えているもの、形が伝えているものの役割を考えて、視覚的に伝えることの構成を整理し、理解する。 ○「タイポグラフィ―」	64～65	
		6	3	表現・鑑賞 鑑賞 絵画	色の手紙	ある日、赤い色の紙1枚が「あなたへの手紙」として封筒に入れて届いた。この手紙からどのようなメッセージを受け取れるのか。青い色の紙1枚だったら、または数色の色の塊が置かれているだけのパウル・クレーの作品だったら……。どんな意味を含めた手紙かを考えて、その返事を色紙で色彩構成して描く。 ○「感覚と表現」 ●「色彩の仕組み」	22～23 86～90
	中期	4	表現・鑑賞 デザイン	私の頭の中かもしれない 新種発見	ヨシタケシンスケ作「りんごかもしれない」(プロダ社)や教科書P.60～61の「りんご」から多様なイメージを広げる遊びをして、一つのテーマを基に拡散的なイメージを生み出す。りんごだけではなく、新種の蝶、新種の魚など、新種の生物を想像することで思考を広げる。 ○「気づきに気づく」	60～61	
		4	表現・鑑賞 デザイン	デザインがユーザーをつくる 誰のためのデザイン？ 何のためのデザイン？	身近な人をユーザーに決め、性格、生活リズム、嗜好等を取材し、その人が使いやすい道具(ハサミや爪切りなど)を、教科書P.70～71のデザインのプロセスを参考に、紙粘土等でのモデルやイラストを用いてプレゼンテーションし、ユーザー自身から評価を受ける。 ○「優しさのデザイン」 ●「誰のためのデザイン?何のためのデザイン?」「デザインのプロセス」	68～73	
		2	表現・鑑賞 鑑賞 絵画	私が生きた痕跡 私らしさを写し取る	自分自身を写し取る方法は様々である。写真によるポートレートのほか、コピー機に手や顔を載せたり、自分の影を写し取ることもできる。いろいろな方法で、自分の身体や心の中を写し取って、自分らしさを表現する。 ○「版を用いて表現を深める」「創造の扉 アンディ・ウォーホル」 ●「目に見えないものを表現する。」「ポートフォリオで伝えよう」	4～5、42～43 50～53、84	
		4	表現・鑑賞 絵画 彫刻	ティンカリング 作品から材料をつくる 材料から作品をつくる	身の回りにあるものは、必ず素材からできている。電化製品、文房具などを一度素材に戻して、自分ならばその素材からどのような作品をつくるかを考える。 ○「組み合わせでつくる」「サイエンスアート」	38～39 56～57	
		9	2	鑑賞 デザイン	人類に何があったのか これから何が起こるのか	テクノロジーも生活の中に芽吹く文化である。教科書P.58～59の石盤とスマートフォンの写真を見て、この二つのツールが生まれる間の約4000年で人類に何があったのか、そして、二つのツールの間にどのようなツールが存在していたのかを考え、これからのコミュニケーションの形をイメージする。 ○「デザイン」コミュニケーション①	58～59
		10	6	表現・鑑賞 デザイン	人を振り向かせる方法	地域や学校の中に掲示することで、道行く人の足を止めたり、振り向かせたりするために、視覚表現による作品を用いた方法をチームで考え、作品制作と方法の提案を行う。 ○「ポスターで考える」「仕組みをデザインする」 ●「アートは世界をどう変えるのか?」	2 62～63 74～75 102～103
後期	2	鑑賞 絵画 彫刻	問いをつくる	現代アートの作家の作品から、彼らが、社会や自然や自分自身に立てた問いは何だったのかを考える。 ○「創造の扉 マルセル・デュシャン」「立体表現の広がり」	36～37 54～55		
	4	表現・鑑賞 映像メディア表現	○(マル)が動く 表現が与える命	「○」の形から始まり、「○」の形で終わるアニメーションを制作する。「○」の形が同じであるため、クラスの仲間とアニメーションをつなげることができる。 ○「アニメーションの仕組み」	80～81		
	11	4	表現・鑑賞 絵画	落書きを再現 ～無意識の私の発見～	無意識の落書きに自分で気づかない自己内面を発見し、作品にする過程で自分が思考していることについて考える。 ○「内面を見つめて」	16～17	
	2	表現・鑑賞 絵画 映像メディア表現	光のスケッチ 地球に乗っていることの確認	窓から見える同じ風景を異なる時間に複数枚スマートフォン等で写真撮影し、異なる光で同じ風景を見つめたときの感じの違いを、言葉や絵画でまとめる。 ○「身近な風景を描く」「写真と時間」	18～19 78～79		
	4	表現・鑑賞 絵画	私物語の背景画	自分が主人公のアニメがつくられることになったとして、タイトル、ストーリーを考え、そのアニメの「背景画」で使用する風景を「主人公(私)」のシーンに合わせてスケッチする。 ○「配置と構図で語る」「描きとめられた記憶」 ●「ポートフォリオで伝えよう」	20～21 40～41 84		
	2	鑑賞 絵画	継承と創造 ～文化のバトンの渡し方～	琳派の私淑等、多くの作家が、過去の作品から美を感じ取り、自己の美として自分らしく表現してきた。その作品から、さらに誰かが新たな美の感じ取り方を。美や文化のバトンを受け取り、そのバトンを誰かに渡す「文化のリレー」として鑑賞を行う。 ○「継承と創造」「過去、現在、未来を見通すアート」	26～27 32～35		
3学期	1	6	表現・鑑賞 鑑賞 絵画 彫刻 映像メディア表現	水をつかまえる	科学的な観察や、心での観察、これまで様々な作家が様々な方法で、生命の源である水を探ってきた。水や粘土での表現にも水は欠かせない。多様な考え方、視点で捉えた水を絵画、彫刻、写真などの多様な技法を活用して表現する。 ○「創造の扉 藝術北斎」「テクノロジーで表現をどのように変えるのか?」「写真と時間」 ●「紙の上で考える。」	7 24～25 76～77 78～79	
	2	6	表現・鑑賞 鑑賞 絵画 彫刻 デザイン	願いをカタチに	自分の願いや夢を表現に変えることもアートである。自然の摂理を明らかにしたい(P.7)、世界が平和であってほしい(P.12～15)、自分の子どもに健やかに育てほしい(P.30～31)、自分の生きた証を残したい(P.42～43)、たくさんの人に幸せになってほしい(P.72～73)など、自分の願いや夢を叶えるための絵画、彫刻を制作する。 ○「創造の扉 パプロ・ピカソ」「怪異の生き物たち」「版を用いて表現を深める」「優しさのデザイン」 ●「紙の上で考える。」	7 12～15 30～31 42～43 72～73	